

令和 4 年第 1 回定例会

## 大野誠一郎による質疑応答全文（2022 年 3 月 8 日）

### 【注意事項】

ここに記載した龍ヶ崎市議会定例会における答弁内容は当ホームページ掲載に向けて一部体裁等を調整しておりますが、答弁内容については公式に発表された議事録と照合した上で、忠実に再現しております。

### 大野誠一郎

インターネットをご覧の皆さん、ご視聴のほどありがとうございます。

皆様の期待に応えるべき、爽やかに気合を入れて簡潔に一般質問をしますので、よろしくお願いいたします。

通告により、一般質問を行います。

通告しました内容は、大きなテーマとして、市民とつくる龍ヶ崎の新時代です。

小さなテーマとしましては、1、市民に見える透明な市政改革について、2、市民に開かれた市政について、3、広域行政の考え方について、4、道の駅の検証について、5、牛久沼トレイル、水上スポーツ、キャンプ、グランピングの拠点整備についてをお伺いしたいと思います。

まず初めに、市民とつくる龍ヶ崎の新時代。

この件につきましては、昨日、そしてまた一昨日、この同じテーマでお尋ねはしておるわけなんですけれども、どうも市長の考えている、あるいはイメージ、それが分かりません。ぜひとも分かるような形で、市民とつくる龍ヶ崎の新時代を答弁願いたいと思います。

### 萩原勇市長

先ほども爽やかに簡潔にということから入っていただきましてありがとうございました。私も、龍ヶ崎の大野誠一郎議員に言われた龍ヶ崎の新時代どう考えているのかということで、お答えをさせていただきたいと思っております。

先日の油原議員の答弁と重複する部分もあるかと思いますが、近年の超高齢化社会と本格的な人口減少に直面する中、本市におきましても待ったなしの課題が山積をしております。

さらに、新型コロナウイルス感染症が蔓延している状況でございます。その対応に国や県、そして我々自治体が苦心しているところに、昨年 3 月に発覚をした官製談合防止法違反事件、このことによって市政が大きく混乱をいたしました。その事態の回復を最優先に取り組まなければならないと思っております。私が生まれ育った龍ヶ崎市がこのままではいけないと感じて、強い使命感を持って市政改革に邁進をし、新たな風を起こしたいとの決意から、新時代というフレーズを掲げたところでございます。

そして、市民とつくる龍ヶ崎の新時代というふうに入力したスローガンを、フレーズを掲げさせていただきましたが、これを実現するためには、市民に見える透明な市政の推進や変革を図るために、市職員の意識改革、スキルアップ、そして超高齢化社会の到来を見据えた健康長寿が続く環境整備、将来の龍ヶ崎を担う人づくり、また持続可能なまちづくり等々の市政改革が重要であると考えております。

そして、何よりもこれらの取組を市民の皆さんと一緒に推し進めることができるまちでありたいと考えております。その先に楽しいまち、住みたくなるまち、大人と子どもが関わるまち、そう感じていただける魅力のある龍ケ崎をつくりたいと、その実現こそが、私が掲げる龍ケ崎市の新時代であると考えております。

## 大野誠一郎

市長の考えている龍ケ崎の新時代ということをお伺いしました。大体昨日あるいは一昨日の形で、同じような答弁かと思います。

私を感じますのは、市長はどのような形で、今あるいは就任前、龍ケ崎の市政に対するイメージをどんなふう考えていたのかを知りたいと思います。

なぜかといいますと、新時代というからには、今あるいは就任前、ややもすると旧時代になります。したがって今の時代をきちんと捉えなければ、新時代の到来はないかと思います。

さらに、なぜかといいますと、市長という新しい顔が替わる、確かにそれも一つの新時代かもしれません。そして、政策的なものは、なかなか市民の皆さんといろいろな意見を交わし、そして要望を吸い上げ、議員と議論を交わしながら、そして皆さんと新時代をつくとそういうわけですけれども、やはりなかなか方向性というイメージが湧かなければ、市民あるいは議員の皆さん方も、市長と一緒に話し合うことができないかと思います。そういう意味でお尋ねしたわけなんですけれども、今あるいは就任前というのは、龍ケ崎の市政はどんなふうにお思いになっていたのか、そういった所感をお願いしたいと思います。

## 萩原勇市長

就任前に思っていた龍ケ崎市政ということでございますが、私も県議会時代、私が一般質問する際には、毎回この龍ケ崎の市長に1時間時間を取っていただきまして、何かやることがあれば幾らでも県政に物申してくださいと、そういうお話をさせていただいた、毎年させていただきました。いろいろな雑談で終わったり、そんなこともありました。

それで、中山前市長が掲げた4つの日本一について、私はいいものは踏襲していくべきだというふうに思っております。ただ、私としては、いろいろな例えば目標値、そういったものをしっかり示してやっていくことが大事であるというふうに思っておりました。

ですから、私に、先ほども大野議員からもありました新時代って何ぞやと、例えば私が替わっただけでも新しい時代になっていくんだらう、そういうことも思っておりますし、私は、この政策ビラ等々も作らせていただきましたが、こういった中で、全部は書けませんでした、あるイメージ的なものは、市民の皆さんにも伝わっていたのかなというふうに思っております。

また、傍聴に来ている皆さんからもちょこっとこの間話を聞いた中で、例えばAI運行バス、市民の足のために何とかやってくれだとか、そんなようなお話しもさせていただいたこともあります。

そんなことも含めて市政に取り組んでいきたいと思いますが、何よりもやはり市民の皆さんファーストで考えさせていただいて、そして議員の皆さんのご理解をいただき、そのためには、私はいろいろな情報が必要であると思っておりますので、その情報をしっかりと市民の皆さん、またこの茨城県やこの日本、そういったところのいろいろな事例等々を勉強させていただいて、この龍ケ崎市に合うものをつくらせていただきたい、そういう思いでございます。

## 大野誠一郎

次に、市民に見える市政改革についてをお尋ねしたいと思います。

市長は、先ほども同じように官製談合事件に触れながら、市民に見える透明な市政改革に優先的に取り組むとしていますが、その内容についてお尋ねしたいと思います。いわゆるその市政改革の一つは、官製談合事件にまつわる市政改革ということなわけなんでしょうけれども、そういった官製談合事件以外のそういった市政改革というものはないのですか、お尋ねしたいと思います。

## 萩原勇市長

令和4年第1回臨時会での所信表明で、優先的に取り組むことの一つとして、市民に見える透明な市政改革を表明させていただきました。これは、重要な事業等の政策立案過程が不透明であったり、情報発信が不足していたという反省からでございます。

例えば、その事件があったときに、本当に龍ヶ崎市の市民がその内容を何%ぐらい知っていたんだろうか、ちゃんとそういう情報発信をしたんだろうか、そういったこともありまして、私はまずは、そういった市民にこういうことが起きたんだよということを知らせなければならないという思いでありまして、ホームページ等々で今は周知をさせていただいております。

また、今後私が優先的に取り組む開かれた市政の推進については、市政のトップである私や行政が何を考え、何をしようとしているのか、それに対して市民の皆さんや市議会の皆さん、市職員の皆さんはどう考え、どうしてほしいのかといった意見交換を積み重ねることにより、政策の形成過程をより透明なものとして、健全で信頼性の高い開かれた市政運営が推進できるものと考えております。

その一環として今後取り組むものでございますが、私が率先して現場に足を運んだり、特定の団体、個人に偏ることなく、広く市民の皆さんと意見交換を行う、例えば出前市長室等々の納得性の高い公平公正な人事評価を構築したりとか、そういった職員との信頼関係、市民との信頼関係、そういったことを確保していくことなどがあると思っております。

## 大野誠一郎

市長の公約、ここにありますがけれども、市民に見える透明な市政改革の中身としまして、市政情報の発信、市職員の改革、出前市長室、ワンストップアドバイザー、IT先進都市を目指しますというようなことが書かれておりますけれども、私が知る限りでは、市政情報の発信あるいは市職員の改革につきましては、既に、あるいはずっと前から引き続いてやっていると私は感じています。

そういったことでございますので、そういった今お尋ねしたのは、そのほかの市政改革というものはないものかと、そういう意味でお尋ねいたしました。

昨日の答弁では、市長は、たくさんすること、やることはあるんですけども、限られた紙面で簡単に分かりやすくするために、こういう少ない内容であったというようなそういうお話だったと思っておりますもので、こういった透明な市政改革というものにつきましては、官製談合事件のほかの市政改革はないものでしょうかということでお尋ねいたしました。

何かありますか、そのほか。もしあれば、答弁をお願いしたいと思います。

## 萩原勇市長

何かありますか、そのほかにとということでございますが、取りあえずいろんな課題、ここにもありますけれども、いろんなことも書かせていただいて、まずやっぱり一番感じたのは、この真ん中に書かれた市民の透明な市政改革ということから始まって、市政情報の発信、前市長もやっているんじゃないかということで、市長の手紙等々ありました。私もそれを引き続きやらせていただいておりますが、私、全部読んでいます。全部読んで、市の担当課と一緒にその内容等々を含めて、あとは情報が出せるものはしっかり出して、市民にちゃんと伝えましょうということで発信を今また新たに市民に丁寧にやらせていただいております。

また、市の改革、これはやはりしっかりできる方が昇進していただきたい。やっぱり下からの評価というのを私は大事にしていきたいとか、そういった思いでこういうのを書かせていただきました。

あと、ここに書かれていないものと、例えばやはり市の職員がやる気を出すということをどうやっていくか。この間本当にいい事例がありました。この議会の場でも言わせていただいたんですが、高校生とのアイデアコンテスト等々、本当にあれは若手の職員が考えて一生懸命やりました。

そういった若手の職員や、市民の皆さんが、ワークショップだとかプレゼンができて、そういったことによって、やはり龍ヶ崎市が盛り上がっていくんだろうというふうに思っておりますんで、そういったところは、これからいろんなことを考えてやらなければならないとは思いますが、そういった市職員もそうですし、市民の皆さんと一緒に勉強をしながら、一緒に会議等々しながらやらせていただきたいと思いますという思いがございます。

## 大野誠一郎

市長の本音を聞かせていただきましてありがとうございます。

今お話のありました内容につきまして、あるいは高校生の政策コンテストと、あるいは市長の手紙ということがありますけれども、次の市民に開かれた市政についてが関連しますので、次、移りたいと思います。

市民に開かれた市政についてをお伺いしたいと思います。

といいますのは、今お話のありました、これまでもかたらい広場、あるいは市長への手紙等々で広聴は実施してきましたけれども、今後、市長は市民に開かれた市政についてどのようにお考え、そしてまたどのような形でやろうとしているのかをお尋ねしたいと思います。

## 萩原勇市長

先ほどもちょっと述べさせていただきましたが、これまでも市民の皆さんの意見、要望を把握するため、はがき、また市のホームページによる市長への手紙、5人以上のグループによる市長とのかたらい広場など、様々な機会やツールを使い、市民の皆さんの意見を伺ってきたということだと思いますが、今後の広聴業務でございますが、これまで実施してきたかたらい広場等のほかに、他の主な取組としてコミュニティセンター単位で、地区の様々な方々を対象として意見交換の開催を考えております。私が率先して現場に足を運び、市民の皆さんと膝を交えて意見交換することによりまして、市民の皆さんの意向や要望を把握して、責任を持って市政に反映をしていきたいと考えております。

また、これは茨城県でもやっていた調査なんですが、インターネットによる柔軟な運用が可能なネットリサーチの活用です。認知度や満足度調査などあらゆるモニター調査について、レポートや分析がスピーディーに実施できる上、大規模調査にも対応して集計も速いといった特性がございます。市民の皆さんと距離を縮め、広く声をお伺いするとともに、こういったツールを上手に活用することで、より効果的、効率的な民意の把握、そういったことに努めていきたいと思っております。

## 大野誠一郎

市民に開かれた市政ということで答弁いただいたわけですが、出前市長室というなお話がありました。これにつきましても、各コミセン、いわゆる各地域においてということにはなかったように思われますけれども、これまで、それでもそれなりの懇談会とか、いろいろな出前市長室とは言いませんけれども懇談会や説明会はあったと記憶しております。したがって、名前を変えたというだけでそんなに変わりはないんじゃないかと、そういう意味でお尋ねいたしました。

まずもって昨日も話が出ました最上位計画、それこそ目前に迫っている最上位計画についての取組は、いわゆる市民参加あるいは対話により、市民の意見をどのように反映させていくのかを具体的によろしくお願ひしたいと思います。

## 萩原勇市長

先ほどの出前市長室のイメージなんですが、私だけじゃなくて、やはり市長室なんで担当部長等々も一緒に行って、市民の意見等々をしっかりと答えられるようなところでやらせていただきたいと思っております。私一人だけで答えられないものもあると思いますから、そういったことを龍ヶ崎市は本当に先代の市長さんがコミュニティセンター、各小学校区単位に造ってくれたんで、そういった施設があるというのは本当にありがたいことでございまして、そういう取組をしていきたい。

やっぱりいろんな会合等、今コロナでできませんがいろんな会合等ありました。ただ、やはりそういった場所に行けば、違う人たちがたくさんいると思います。やはりなかなか私とお話ができない市民の皆さんも、本当に多くいると思います。そういったところをしっかりとやっていきたいという思いは持っております。

また、先ほどの質問で、より広く市民の意見を聞いて、どうやって次期最上位計画に反映させるのかなんですが、最上位計画の策定に当たりましては、市民の皆さんからのご意見、ご提案をお伺いする、計画に反映させていくことに関して、考え方については、昨日の岡部議員からのご質問等にも詳細にお話をさせていただいたところでございます。

最上位計画は、今後、市が目指すべき方向を示す最も重要な計画でありますことから、これまでも、そしてこれからも、可能な限りご意見などをお伺いする機会を設けて、計画に反映させることができるように、先ほどの出前市長室もそうですが、そういったことを含めて努めていきたいと考えております。

## 大野誠一郎

この最上位計画につきましては、昨日、市民アンケートあるいはワークショップ、オンライン等で、そういった市民の意見を吸い上げるというお話は承りました。

ただ、これからある意味予定としましては、6月の素案づくり、そしてまた今年度中に議案として提出すると、そういった多少のスケジュールは決まっておるわけなんですけれども、こういった市民アンケート、ワークショップ等につきましては、萩原市長が就任する前のお話かと私は思っております。

要は就任してからの意見の吸い上げを、市民やあるいは議員に対してどういった意見の吸い上げを、6月まで、あるいは議案を提出するまでの間していくのかをお尋ねしているわけです。

こういった所信表明の中にも具体的な政策、施策については、議員の皆さんのご意見をいただきながら丁寧に議論を重ね、次期最上位計画の素案づくりを推進してまいりますと、こういう所信表明でありまし

た。そういった意味で、出前市長室とかいろんな形の中を、出前市長室を通してこういった形で、あるいは他の方法でこういった形で、次期最上位計画の素案づくりに反映していくのか、それをお尋ねいたします。

### 萩原勇市長

私のこの政策等々も書かせていただきましたが、こういったことを私の思い等々も入れながら、そして先ほども申し上げました前市長の掲げた目標等々、やはりいいものはしっかりと踏襲していきたいというふうな思いがございます。そういった私の思いだとか、これからこれは継続したいよね、そういう思いは、まずは議員の皆さんにしっかり示していきたいと思えます。こういう例えば素案や骨子ができました、議員の皆さん、どうでしょうかこれは、ということでお示しをさせていただいて、それに対して議員の皆さんからご意見をいただきたい、そんなふうに思っております。丁寧に議員の皆さんとしっかりやりたいという思いはございます。

例えば人事の案件、教育長の人事の案件、また官製談合についての第三者委員会からのことについても、前もって議員の皆さんにお示しをさせていただきました。今まで本当にそういったこと、前もって皆さん方に示したことあったのかどうかということも、ぜひ考えていただきたいというふうに思っております。骨子、また素案について説明会、意見交換等々は、これから市民の皆さん等々にもやらせていただきたいというふうに思っております。

### 大野誠一郎

今ご答弁の議会に対して説明があったのかという内容につきましては、当然、全員協議会でありました。むしろ萩原市長の考えている内容は、私はもっと踏み込んで、全員協議会に1回説明する程度ではなくて、議論を重ねるということでございますので、さらにもっと深く突っ込んだ内容、あるいは回数で議論を積み上げるものと思っておりますので、質問をいたしました。

それと、市民の出前市長室、あるいはその他の市民の声に、やはりその6月の素案づくりに間に合うように、市民と議員と議論を重ねていただきたいと思えます。

続きまして、広域行政の考え方についてお尋ねいたします。

大分、稲敷広域市町村圏事務組合、それから龍ヶ崎地方衛生組合の管理者の互選の問題につきましては、昨日、油原議員からも話がありましたけれども、そしてまた昨日は茨城新聞に掲載されました。そういった意味で広域行政の考え方、市長はどんなふう認識をしておるのかをお尋ねしたいと思います。

### 萩原勇市長

本市におきまして、これまでも消防やごみ処理、し尿処理、後期高齢者医療などの事務について、一部事務組合等の広域行政制度を活用することにより、効率的な行政運営に努めてまいりました。

今後、急速な人口減少や少子高齢化の進行が見込まれる中、公共施設等の老朽化なども重なり、自治体において人や財源、施設をはじめ様々な経営資源の制約に直面することが予想されます。

こうした状況の中、これまで市民に提供してきたサービスを一定のレベルで維持し、将来にわたり継続していくためには、市町村の枠を超えて共同処理を行う広域行政が担う役割が、より重要性を増しているものと考えております。

将来的に持続可能な公共サービスを提供していくためにも、近隣自治体等との連携によるスケールメリットを生かした広域行政の取組を推進し、引き続き効率的な行政運営に努めてまいりたいと考えてお

ります。

## 大野誠一郎

広域行政の必要性、重要性、連携の大切さというものは分かりました。

そこで、ちょっとお尋ねいたしますけれども、龍ヶ崎地方衛生組合の管理者の互選についての会議録の中で、その会議の互選の内容について書いてありますけれども、まずは、中島管理者の職務代理者が、互選についていかがでしょうかと、そういった中で牛久市長の根本市長が、取手市の藤井市長を推薦いたしますと話が進み、萩原市長が、今までの歴史についてどのような状況があったのか、そういった問いに荒井事務局長は、これまでは龍ヶ崎市が管理者をやっていたというふうな歴史をお話しされました。

そこで萩原市長が、少し読みます、あとは龍ヶ崎市から申し上げたいのは、歴史がこの龍ヶ崎市にあるということが、まず皆さん分かっていると思うんですが、今までのこの組合が始まってから龍ヶ崎が先頭に立ってやってきたということ、そしてこの龍ヶ崎の地に、言い方はちょっと悪いんですが迷惑施設ということで、本当に龍ヶ崎市のこの長戸の、長戸地区 7 地区ありますが、7 地区の市民が何とかいろいろな説得をしながら、そしていろいろなお金を使いながら水道を引いたりですね。そして、地域のことがあればそういったサポートをしたり、そしていつになったらどくんだと、そんな思いを龍ヶ崎市の市民はしております。

なので、ぜひもし取手がやられるのであれば、言うなれば取手が管理者になるのであれば、まずはその地区の 7 地区の皆さんのところを歩いていただいて、管理者になりましたと。7 地区というのは、塗戸、下塗戸、半田、長峰、大塚、板橋、数百世帯ありますけれども、そういったところをしっかりと歩いていただいてやっていただきたいという思いと、あとは取手市さんにつきましては、ごみは常総さんをお願いしている。そして消防は単独である。そして衛生に関しては、龍ヶ崎に流している。こっちをお願いをしているという事情があります。

ですから、もしそういうものであるのなら、ぜひ取手に造っていただきたいとお願いしたい。つまり、取手にし尿処理場を造っていただきたいということをお願いしたい。牛久が推薦するんだったらということは、藤井市長を管理者に推薦するんだったら、牛久の市長にもぜひそういったことをお願いしたいというように、龍ヶ崎市は思っております。

藤井管理者、今の萩原さんの、萩原さん個人として言ったのか、龍ヶ崎市の総意であるのか、それは大きな問題だから、首長としては、少し発言に関しては十分に慎重になってもらいたいというふうに思いますと。

まず、いわゆる迷惑施設ということですが、長戸地区の皆さん、あるいは長戸地区のほかの市民の方が、いつになったらどくんだと、そんな思いを龍ヶ崎の市民はしておりますということなんですけれども、いつになったらどくんだというふうな意見というものは、私は、そしてまたほかの議員の皆さん方も聞いたことはないような気がするんですが、そういう意見はあるんでしょうか。市長にお尋ねいたします。

## 萩原勇市長

先日も油原議員からお話もありまして、今までのその管理者等会議について、いろんな歴史の話をさせていただきます。

当時の荒井源太郎市長、岡田宇三郎市長、中村忠雄市長、岡田昭守市長、こういった先代の龍ヶ崎の市長が本当にリーダーシップを執って、この龍ヶ崎の地に、市民の皆さんのご理解をいただいてやっ

てきた経緯というものがございます。

私は、第 20 代の市長として、そういった今までの先代の市長たちが、どういふふうリーダーシップを執ってやってきたんだという思いを感じながら、そういった発言をさせていただきましたが、私も就任して本当に数日のことでもございました。そういったときにその管理者等会議がありまして、稲敷広域があつて、その後、衛生組合があつて、塵芥があつて衛生だったかな、三つありました。

そのときの発言については、本市が、し尿処理施設が立地する地元の自治体であること、またこれまでの関わり、歴史の背景を踏まえて、私の思いも述べさせていただきました。広域行政の重要性については、十分理解をしているところでございます。先ほども話したとおりでございます。ご指摘は真摯に受け止め、引き続き構成自治体の連携による取組を推進してまいりたいというふうに思っております。

### 大野誠一郎

いつになったらどくだというやつは、過去の話ということで受け取っておきます。それでよろしいわけですよ。今の話じゃないんですよ。今の話なんですか。

はい、過去のですね。分かりました。

さらにもう一つお尋ねしたいと思います。

取手市に造っていただきたい、そしてまた牛久市が管理者に藤井市長を推薦するんだつたら、牛久にも造ってほしいと。つまり脱退を意味する。脱退、つまり抜けて造ってくださいというふうなことなんですけれども、それを龍ヶ崎市は思っております。

これはやはり先ほどの言う市民あるいは議会と一緒に龍ヶ崎をつくるんだと、そういう意味でそういう話があったんでしょうか。あるいは、個人的な思いなのか、龍ヶ崎として発言しておるのか。市長が管理者、副管理者の中で市として代表しているわけですから、発言したことは当然、龍ヶ崎市の発言だとは思いますが、代表として言ったのか、個人的な思いで言ったのか、ちょっとお尋ねいたしたいと思います。

### 萩原勇市長

先ほど来から、先日の油原議員のほうからもありましたとおり、申し上げておりますが、私も就任して間もないところでございました。稲広については、就任して3日目のことだったと思っておりますが、そういった中でいろいろなエスカレートするような発言もございました。

ただ、私としては、長戸地区の7地区の皆さんの思い、これまで本当にそういった長戸地区の皆さんにご不便をおかけしていたとか、ご迷惑をおかけしていたという思いは述べさせていただいたと思います。ただ、その中で、ちょっと私的な発言等々もあったかと思っております。そういったことについては真摯に反省をさせていただいて、引き続き、構成自治体と連携して取組を推進してまいりたいと思っております。

### 大野誠一郎

ぜひ反省、むしろ猛省をしていただきたいと私は思っております。

次に、組合統合に3組合統合、いわゆる稲敷地方広域市町村圏事務組合、龍ヶ崎地方衛生組合、そしてまた塵芥処理組合、そういった3組合統合に関する認識、考え方についてお尋ねいたします。

## 萩原勇市長

3組合統合に関する認識、考え方についてお答えさせていただきます。

稲敷地方広域市町村圏事務組合、龍ヶ崎地方衛生組合、龍ヶ崎地方塵芥処理組合のいわゆる3組合の統合につきましては、時代の変化に即して、よりスケールメリットを生かした効果的・計画的な広域行政を展開していくことが重要との認識から、本市から働きかけを行い、3組合の統合・複合化に向けた協議がスタートしたものと説明を受けております。

先ほども申し上げたとおり、私は、自治体が様々な経営資源の節約に直面することが予想されるという時代の変化に伴い、広域行政の重要性は一層増しているものと考えます。このような中、3組合においても、これまで以上に広域化によるスケールメリットを追求していく、積極的な姿勢が求められているものと認識をしております。

特に、ごみ処理事務については、施設の維持管理や将来的な施設更新等に係る費用負担が関係市町村共通の課題と考えております。長期にわたる取組であることから、稲敷・龍ヶ崎地域全体での効率的なごみ処理の在り方について、今のうちから方向性を模索していく必要があるものと捉えております。

いずれにいたしましても、3組合の統合につきましては、持続可能な公共サービスの提供に向けた取組を加速する第一歩として必要な取組であると考えております。引き続き、構成市町村と協力しながら推進していきますが、議員の皆様方もおりますので、そういったところを丁寧に説明していくことが大事だと思っております。

## 大野誠一郎

3組合統合に関しての認識は分かりました。

5番目の牛久沼トレイルということにも関連するわけですが、市長は、牛久沼トレイルを国・県あるいは5市1町の中で広域的に進めていきたいというような話なわけなんですけれども、先ほどいわゆる広域行政についての管理者会議の件につきましては、亀裂が生じたというふうに思うのは、あるいは信頼関係が多少崩れたと思うのは私だけでしょうか。そういった萩原市長の構成市町村の信頼関係の回復をどのようにするつもりでおるか、答弁願います。

## 萩原勇市長

先ほども申し上げたとおり、広域行政における取組方については、各市町村長の皆さんも理解をしていると思っております。

さきの牛久沼トレイルの話にいきますと、牛久沼トレイルを事業化していくためには、沼を囲む自治体との連携・協力をしながら対応していくことが重要であると思えます。この牛久沼の活用については、市町村長だけでやれることではございません。そこに各議会の皆様、市民の皆様がおります。そういったところでも対話をしていくものだろうと思っておりますので、亀裂が入ったという発言もございましたが、私は、牛久沼について有効活用したいのは、これは首長だけの思いではないと思っておりますので、そういったところを議員にも理解していただきたいというふうに思います。

また、これまでの牛久沼を地域の貴重な資源と捉えて、牛久沼周辺首長会議において、牛久沼及び周辺地域の活用・推進について情報を共有してきたこともございます。自治体にそれぞれ抱える課題などあるかと思いますが、従来の牛久沼周辺首長会議に国や県を迎えることにより、広域的な取組を

通して課題解決をしながら、より具体的な検討を円滑に進めてまいりたいと思っております。

### 大野誠一郎

牛久沼トレイルにつきましては、5市1町の温度差があるというふうに私はいつも感じております。そういうわけで、なかなか進まない、そういった中にこういった龍ヶ崎地方衛生組合、稲敷地方広域市町村圏事務組合にもいろいろな管理者互選についての話があったときに、本当に障がいにならないものかと憂いているわけでございます。そういった意味で、何も無いことを願うものばかりです。

続いて、道の駅の検証についてお伺いいたします。

道の駅の検証というものはどのように行うのか、あるいはこういったポイントで検証するのか、あるいは、阿見町としては検証委員会を組織したようですが、龍ヶ崎市はどのような形で行うのかをお尋ねしたいと思います。

### 萩原勇市長

道の駅の検証は、こういったポイントで検証するのということなのですが、金剛寺議員の質問とも答弁が重複することになりますが、道の駅整備事業の在り方を判断していくためには、建設事業費を再算定すること、運営費や収支状況の検証などが必要と考えております。来年度内を目途に検証内容を公表の上、市民の皆様からご意見を把握し、判断材料の一つにしていきたいと考えております。

また、本市の道の駅は、国土交通省との一体型整備として進めてきた事業でもありますことから、同省とも十分な協議を進めてまいります。

### 大野誠一郎

道の駅あるいは5番目の牛久沼トレイル、水上スポーツ、キャンプ、グランピングの拠点整備について、これまで「感幸地」構想ということで龍ヶ崎市としては進めてきたわけでございますけれども、「感幸地」構想についての関連性をお尋ねしたいと思います。

### 滝沢健一議長

大野議員、時間が過ぎておりますので、以上で大野誠一郎議員の質問を終わります。

〔発言する者あり〕

時間が切れているところで、最後、大野議員が自分の意見を述べて終わりにするのかと思っていたんですけども、時間が終わっていますので、次の質問には入れません。

以上で大野誠一郎議員の質問を終わります。

---- 以上 ----